

た。

無事帰国できたことは本当にありがたいことで、心から感謝いたしております。

戦争による悲しい出来事は、永遠に消滅することはないでしょう。不幸にして、彼の地において亡くなられた多くの霊に安らかにと心よりご冥福をお祈りしつつ、この体験記を書かせていただきました。

満鉄社員時代引揚迄の思い出

静岡県 石井 光 兼

昭和十一年二月二十六日お堀端にある第一生命の変電所に勤務して居りました。朝早くから小雪の降るなか銃声が聞こえるので、屋上の物かげから見降すと、二二六事件でした。事件も終り、四月下旬夕方方らりと神田橋の方に行くが大勢の人が職業安定所の前に居るのでよく見ると職種別に筆太で満鉄の大募集、早速小生も応じ、狸穴の総裁官舎で試験があり、受験者四千人位でした。

幸い合格したので、飯田橋の安定所で仕度金二百円もらい都の第二助役に引卒され、神戸より乗船、門司で九州の人と合流し、大連港に上陸、大連電気区に入社、毎日仕事を忙しく過して居りました。処十六年八月瓦房店電気区に転勤致しました。其の秋、官祭に角力があると云うので昼休の話の最中、北支出張よりかえった、通信係の催と云う満人で二、〇六メートル位、体重一〇一キロ位の大男に、通信信号の若い人達が催に角力をむりやりやらされて問題にならないので馬鹿にされて居るのを見兼ね、いちばん小男の私が相手と出たら、本人も見入人達も、うす笑いでした。右一本背負で、やっといこうほどたたきつけました。それより日本人には角力をとろうといわなくなりました。真夏のある日、仕事からかえると午后、満鉄会館で俳句の教室で、安藤十穂跟先生がお出になるから全員出席の電話で私も参加いたしました。先生は見た物、聞いたもの、凡て五七五の十七文字に作ればよいと言われたので、其の日の仕事、電線のタルミ取りをやってきたので、「電線のリップに見ゆる暑さかな」と書いてリップとは仕事上の言葉で通常はタルミ

という。先生は、たいへんほめて下さいました。十七年十月に大連電気区へ戻りました。ハルビンの北安に飛行場が出来、北安より飛行場までの送電線建設のため七ツの鉄道局より十人宛て計七十人集りました。大連電気区より十人参加、私も行きました。北安の電気区で朝の点呼の折り区長より私に仕事上の全責任者として依頼されたので若い時なので大いに張りきり先頭に立って仕事を完了致しました。其の折り三日間の休暇をもらい孫呉、黒河に行きました。駅は全部トーチカでした。外に出ると雄大な黒龍江、両側の河には水車に似た舟が何艘も行来して居り、対岸には陣地が見え百メートル位に望楼が見えました。手前には監視員が望遠鏡で監視所の中から五〇メートル位おきに注意して居りました。その監視員が私等に満鉄社員なので室内に入れられソ連兵は皆女の兵隊であるから望遠鏡を見なさいと言われ見ると陣地内を歩く兵隊みな乳房の大きい兵隊でした。其の当時、男はドイツ戦の方に行って留守隊との事でした。雄大な黒龍江の水で記念に顔を洗ってかえりました。そして大連に戻り勤務中ヤマトホテル電気係の今村氏が十五年も居

るので牡丹江の電力助役にするのでエレベーターの出来る人は君以外に居ないから行ってくれと大里区長から言われヤマトホテル電気室勤務を拝命勤務中、東京大角力双葉山と前田山一行が七日間の興業でホテルには、双葉山一行が三階に滞在後に若葉山当時岩平三段目其の下に不動岩が居りました。電話器の事で横綱と話しが出来るようになり、名刺をもらいホテルの人誰れでも裏口から見に行けるようにいたしました。角力を見る度に当時の横綱を思い出します。ホテル在職中大連市主催で中央廣場市役所前より葵大嶺のマラソン塔迄の折返し四十二キロ弱十五キロ背負い三時間三〇分以内に入ると一級で金メダル、二級は三時間三〇分より四時間までが銀メダル、四時間以後は銅メダルでした。私は十一人目に入るとホテルの玄関で大応援のみなさんの声で金メダルをいただきました。ホテル、市役所、正金銀行、等が中央廣場のまわりにありました。十九年大連電気区に戻り、大連駅電気工区の責任者として変電所を見乍ら勤務、終戦となり、ソ連兵が入って来ました。八月二十七日鉄道総司令官アンドレール中将一行の列車が一番線に到着。二週間

滞在するが、バッテリーが無いので夕方迄に十両の車内に電灯を取付方申渡され十二人でトランス二〇キロで高圧三三〇〇ボルトより一〇〇ボルトに落して簡単に取付終りました。するとソ連電気責任者中佐格のボロジンと言う人にハラショーと握手されました。星ヶ浦の木造船会社の屋根が飛び雨ざらしの三三〇〇ボルトの高圧モーター三〇〇〇馬力二台と変圧器二〇〇キロ三台一五〇キロ二台の運搬方申渡されました。ソ連は本国へ持つて行くべく吾々に言付けたのです。大形トラック二台用意し其の他道具も積ませ先に十人やりました。用意の為め、少し遅れて行きました。雨雪交りの猛吹雪、何んの段取もして居ないので、大声で一喝し陣頭に立って四寸パイプを二本ワイヤで結び立て両方にロープを張って倒れをふせぎ五頓のチンブロックを釣り簡単に自動車に乗せました。約二〇分位で終り、ボロジン外二人のソ連人に手を握られハラショーと連呼され、石井はスモール・エレクトロニック・ハラショー・ヤボンスキー・キャプテン、体格は小さいが電気の仕事が出来るから日本人の電気の責任者であると言うのですが、当時、電気区には全満から逃げて

来た課長と多田課長、私の所の人、大勢居ったので辞退すると、ボロジンの言う事に、ピシャーチニハラショー、と云て、ソ連は字を書くことより電気の仕事の出来る人がキャプテンである、と云うと多田課長が石井君帰る迄だから受けてやってくれとの事で責任を持ちますと、課長級は月給五千円位、電工は一万円位、私は三万五千円貰って居りました。そして月五回位レストランへ連れて行かれ呑めないのご馳走になり忙しく働いて居りました。二十年四月頃、日満人十七人連れて命令で砂河口駅貨物ホームのトランス撤去中九時少し過ぎ、八路军の兵隊が武装してショットルマー、泥棒と言って来たので、ターピーズンハデガン、ソ連の命令で仕事をして居ると言うのと満人が私をキャプテンと言うと、ライバー、こいと言うので兵隊と行きました。七メートル位高い土塀の中に入られて柱につながれました。約五〇戸位の部落でした。午后二時過ぎた頃小さい門が開くと同時にベルが鳴り、真新しい自転車を押して来た紳士に兵隊が敬礼したので、よく見ると先方よりチャングイと云われ驚きました。終戦迄、私の所で働いて居りました、大連商高出の

秀才で、瀾と云う青年でした。兵隊はあわてて私のロープをほどいてくれました。彼は私を家に連れて行き両親に合せ、ごちそうになり家族の見送りで門を出ました。此の間、彼は本部と私の事で打合せをしてくれました。復商会社が八路軍の本部、少しの話しで心配ないからと云うので本部に行きますと大人達七人程居り、君は瀾隊長のジャグイと開かれ、そこで判明しました。瀾は更衣隊の隊長との事でした。帰りなさいと云われるので外に出るとボロジンとゲベヨ、ソ連の憲兵二人と二丁拳銃で本部に行きますので私も中に入りますと、ソ連の命令で仕事をして居るヤボンスキーを逮捕するとは、敵対行為だから銃殺すると威嚇され全員ちぢみがありましたので、通訳に私が瀾君の好意で何にも受けなかったので許してやってくれと云いましたので無事におさまり、ソ連の車で大連駅電気室に戻りました。瀾君は頭は好し人物として申し分のない人格であるから今は出世して偉い人に成って居ることでしょう。昭和二十一年九月、駅の二階で事務を取って居ると満人の少年変電所番が電話で、ボロジン、ホワイラ、と知らされ急ぐ来ますと、ソ連兵五人の

間に、ボロジンが電気にかかって即死し倒れて居りました。私は変電所に居りましたら責任上、射殺された事でしょう。中佐格なので特別列車で旅順の共同墓地、日露戦争からの墓に埋葬に行きますと四〇以上新しいのがありました。私達が穴掘りを始めると、海軍の一個少隊が来て凡て兵隊がやると云うので上にあがりますと兵隊が一米五〇掘り埋葬の時、空に向けて礼砲を撃ちました。ボロジンの後任にワラビョフと云う学者風の年輩の人物が参りました。少し日が立つと、私に電気技術者だから、八路軍とソ連のために六年間働いて行くよう申渡され気がかりで毎日を通して来ました。二十二年二月八日、大連埠頭に日満電工二〇人位連れて仕事に行きました。埠頭に引揚者のため一万二千枚の畳を敷き多い時は七千人位船を待つて居りました。待つ間、寒さのため栄養失調で死ぬ人がありますので、コンクリート柱の廻りに、ヒイター電熱線を取りつけて暖をとり寒さを凌いで居られる物が当たりますので故障が多く修理は多勢でなおしました。今日の船で逃るべく満人と日本人の電工が居ってはと、待つて帰れない茶舞台等、大きな物を

もらって変電所の隅に積んで置いたのを満人の責任者に全部みんなにくれてやるから先に持って帰って大連駅電気室の前の廣場に並べて置け、船が出たら電気のもとでスコンを切って帰ってクジをつくってやるからと云うと、よるこんで日本人電工共々帰りました。荷物が二〇個位で積み終る頃、輸送指揮官がタラップから降りたのでペンを腰に付けゲートルのまま荷物をかきいで乗船荷物の中にかくれました。船は三山島沖に来ると私の逃げるのを知って居られる熊本市の山田さん、九州大学出の牡丹江の電力課長、只一人知って居られ私を呼び外人は一人も居ないとの事で二人で事務長に一切話すと乗船名簿に記入してもらいました。君一人なら船員の手伝いをしてくれと云われ安心致しました。食事も船員と同じでよかったです。船中で三人ほど死亡され、埋葬には大きな石五個位つけて坊さんの読経が終ると滑り台から事務長の手でロープを切り水葬の手伝等して舞鶴港に無事上陸、お湯に入り身体検査も終り東京帰りは二五二人列車内世話人七人其中に私も入れられました。名古屋で食事を受取ったり、皆に配給したりする間に、小田原駅に

下車される大連満鉄電気工場長の岩竹松之助工学博士、後に芝浦工大の学長の家族の荷物十八個、全部私を知って居りましたので積み降しをしてやりました。昨年満鉄報でご死去遊ばされた由。列車は品川駅に到着、解散し、私は上野の神吉町の引揚者の寮に入りました。三か月間の食券と千円いただき、二十二年四月、川崎市役所交通局に就職、三十五年十二月満六〇歳で停年退職致しました。満鉄在職中生計課発行の主婦のお買物帳の演芸欄に俳句と短歌、私も俳句を出すと天位に当選致し賞金十円もらいました。題名は(蜂)でした。

人もかく見習え蜂の友かせぎ 光月

満州国総務長官秘書処員で

終戦帰国して

愛知県 山本茂三

渡満後の状況

私は、愛知県知事官房秘書課に勤務していたが遠藤知